

3 校外学習での事故

(1) 基本的な考え方

- ・校外学習を実施するにあたっては、たとえ経験のある場所でも、また、学校から近い場所であっても、状況の変化が考えられるので、実地踏査は必ず実施する。
- ・無理な計画は心身の疲労を生じ、事故の原因となりやすい。実地踏査の結果等を十分に生かして適切な計画を立てる。
- ・校外学習の目的や想定される事故等について児童に十分理解させるとともに、日常の安全指導を徹底しておく。
- ・校外学習実施計画書については、各区市町村教育委員会の管理運営規則に基づき提出すること。

①実地踏査の留意点

- ・コース、歩行距離、所要時間、現地での学習活動等が、児童の負担過重にならないかを確認する。
- ・現地までの経路において、迷いそうな道や危険箇所、危険を伴う生物の有無や所在などを確かめる。
- ・体験学習中において発生可能な事故の内容や事故を回避する方法などについて確認する。
- ・天候の急変等により周囲の状況が変化した時の避難場所や避難方法を確認する。
- ・医療機関の所在や緊急連絡の方法を確認する。

②事前の指導・持ち物

- ・秩序ある規則正しい行動、特に集合、点呼、歩行などの集団行動の指導を徹底する。
- ・校外での学習時には、普段の学校生活とは違って解放感が伴うことから、それによって事故が起きる例が少なくないので、軽率な行動を慎むための指導を行う。
- ・目的、場所にあった適切な服装等を準備させる。場所や目的に応じて帽子を着用させたり、皮膚の露出部分の少ない服装を用意させたりする。

③現地での指導

- ・集合時刻、集合場所、危険箇所等の徹底を図り、指示した行動範囲を厳守させる。危険な行動については毅然とした指導を行い、安全確保を図る。
- ・用便や水飲みなど、教員にその旨を伝え、複数で行動させる。決して単独行動をさせない。
- ・児童の健康や気象状況及び周囲の状況等に常に注意を払い、異常事態に際しては、管理職の判断のもとに敏速に行動する。

(2) 安全管理チェックリスト

〈実地踏査での確認事項〉

	確認項目	確認済 (実施済)	未確認 (未実施)
1	候補地が学習目的、所要時間、児童の体力、安全性等の観点から適切であるかを十分に検討する。		

2	実地踏査は、複数の教員で実施する。		
3	現地で危険箇所の有無を確認する。		
	(1) コースで迷いやすい箇所はないか。		
	(2) 児童の体力等、実態にあった行程時間が計画できるか。		
	(3) コースは一斉行動、班行動のどちらが適するか。		
	(4) 滑落や落石、崖崩れが起きやすい場所はないか。		
	(5) 河原の増水や海での高波、津波の危険性はないか。		
	(6) 駅やホーム、車内での事故、交通事故の危険性はないか。		
	(7) 山では、熊、まむし、蜂、猿、野犬などの動物 海では、クラゲ、ゴンズイ、オコゼ、エイ等の危険な生物はいないか。		
	(8) イラクサ、ウルシ、ヌルデ、ツタウルシ等のかぶれる植物やトリカブト、ドクウツギ、ドクセリなどの毒草はないか。		
	(9) トイレ、水飲み場や日陰（休憩場所）はあるか。		
	(10) 雨や落雷などの天候急変の際の避難場所はあるか。		
	(11) 緊急時の連絡はとれるか。（携帯電話やトランシーバーが使えるか）		
(12) けが人等を搬送する方法はあるか。（救急車やヘリコプターなど）			
4	実地踏査報告を関係教職員に周知徹底する。		
5	児童の体力や実態に合った行程時間を設定する。（持病等のある児童の別行動なども検討する。）		
6	学校医などによる健康診断や健康観察を実施し、児童の健康上の留意点等にかかわる情報を関係教職員が共有する。		
7	現地の医療機関の場所や連絡先について関係教職員が共有する。		
8	保護者に校外学習の趣旨・内容を周知し、児童の参加、不参加を確認する。		
9	児童への安全指導等、事前指導を十分行う。		
10	持病等のある児童には、薬の持参について確認する。		

〈実施日の確認事項〉

	確認項目	確認済 (実施済)	未確認 (未実施)
1	当日の朝、現地のビジターセンターや管理施設と連絡をとり、天候の急変やダムの放水による増水、崖崩れ、高波等の可能性はないか確認する。		
2	集合時に児童の健康確認をする。		
	児童に目的地までの間に起きやすい事故や駅・車内などでの注意事項について指導する。		
3	出発時には、学級担任が児童の健康状況や欠席状況を把握し、学年主任に報告する。学年主任は、引率の管理職（主幹）と学校待機の管理職に報告する。		
	引率者の配置は、児童の行動が常に把握できる位置にする。また、移動中は		

	列の先頭と最後尾に必ず教員を配置する。		
--	---------------------	--	--

	確認項目	確認済 (実施済)	未確認 (未実施)
4	当日の朝、現地のビジターセンターや管理施設と連絡をとり、天候の急変やダムの放水による増水、崖崩れ、高波等の可能性はないか確認する。		
5	集合時に児童の健康確認をする。		
	児童に目的地までの間に起きやすい事故や駅・車内などでの注意事項について指導する。		
6	出発時には、学級担任が児童の健康状況や欠席状況を把握し、学年主任に報告する。学年主任は、引率の管理職（主幹）と学校待機の管理職に報告する。		
	引率者の配置は、児童の行動が常に把握できる位置にする。また、移動中は列の先頭と最後尾に必ず教員を配置する。		
	列の先頭と最後尾、中間に位置する教員は、携帯電話やトランシーバー等で連絡が取り合えるようにしておく。		
	登山や水遊び等の活動に入る前に、現地での危険箇所、危険行動について十分指導する。危険箇所には、必ず引率者を配置する。		
	集合時や休憩時等には、必ず点呼を実施し、人数確認や健康状況の把握を確実に行う。		
	救急箱、ハンドマイク、トランシーバー、笛、携帯ラジオを引率者が携行する。		
	（食料）、雨具、水筒、笛（事故時の合図用）等を持参させ、リュックに入れて両手をあけるようにする。		
	山の服装は長ズボン、長袖、帽子にする。河原や磯での水遊びでは水遊び用の運動靴をはかせる。		
	解散前に人数及び健康状況について確認をし、終了後は学年主任、または主観が学校待機の管理職へ終了の連絡をする。		

〈実施後の確認事項〉

	確認項目	確認済 (実施済)	未確認 (未実施)
1	帰宅後に健康状態に異常はなかったか。（特に食中毒やけがに留意する。）		
2	コースなどは、学習目的、児童の実態に適していたか。		
3	天候、落石、滑落、危険動植物など、安全上適当なコースだったか。		
4	引率者の人数や配置は適当だったか。		

